

身近な話題をお届けします。皆さんからの情報もお待ちしております。

つながるアルバム

ふ かしイモで味わいました



「甘さが違うね」
「イモの種類で食感も違う」
味わいを確かめながら

2月8日、村の小中学校の給食に、甘くてホクホクのふかしイモが登場しました。日本赤十字社福島県支部を通じていただいた鹿児島県出水市「学校まごころ便」のサツマイモです。地元産との食べ比べなどとして、産地から届いた贈り物を、感謝と一緒に味わいました。

佐 藤昌明さんの著書が受賞

飯樋町出身の佐藤昌明さんの著書「飯箱を掘る」が、第1回「むのたけじ地域・民衆ジャーナリズム賞」の優秀賞を受賞。2月9日に、日本プレスセンター（東京都）で表彰式が行われました。受賞作は、天明の飢饉の歴史を紐解きながら、原発事故による全村避難取材した力作です。



カ ラフルな作品ができ上がりました

2月22日、災害復興住宅壁沢団地（川俣町）で手芸教室が開かれ、入居者の皆さんが、布製のリースと、石鹼に飾りを付けるデコパージュを製作しました。講師は、菅野ひとみさん（宮内）。笑いが飛び交う中、工夫をこらしたオリジナル作品ができ上がっていきました。同団地では、3月末まで手芸教室の他、村の栄養士を講師に料理教室なども開いています。参加希望の方は、渡邊美夫自治会長（前田・八和木）☎080-2812-5928 までお問い合わせください。



入居者以外でも参加OK！
交流も楽しみですね

参考／写真転載
飯館村史第3巻「民俗」

荷をつけるために馬の背に置く荷鞍（こべり）



ちよつと昔の
いいたて
ライフ
その10

運送業にも牛馬が活躍

産地から消費地まで、人は、布やカゴなどを工夫して使い、さまざまな物を運んでいました。しかし、人の力では、運ぶ量に限りがあります。そこで利用されたのが、牛や馬の力でした。その頃は、牛方、馬方と呼ばれる運搬業の人が、あちらこちらにいました。平らな道を行くスピードでは馬の方が断然有利でしたが、急な坂では牛の方が頑張りがきくという具合に、道路事情や運ぶ荷により向き不向きがあったようです。

魚などの生ものは、ポンポンと元氣よく歩く、足の強い馬が運びました。馬方は、夕方浜にあがった魚を荷鞍につけて、1頭ずつ馬を引いて出発します。村には、馬方たちが半泊まりする宿が、何軒もありました。宿に着いた馬方は、庭に魚をおろして着どころ寝。朝の3時頃まで寝て、暗いうちにまた出発しました。そうした運搬が、一年中行われていたそうです。カツオの時期には、「カツオカゴ」と呼ばれるカゴに、獲れたてのカツオを入れた馬の道行く姿が風物詩でした。

一つひとつの工夫や努力が重なり合って発展し、現代の物流を作り出して来たと考えるところがいずれです。

大島花子さん ミニコンサート

あたりまえをありがたいと思う日

3月11日は「あたりまえをありがたいと思う日」。前日の10日に開催する関連イベントの中で、大島花子さんのコンサートを開きます。イベントは午後1時にスタート。詳しくはP21をご覧ください。

3/10
交流センター「ふれ愛館」
どなたでも観覧無料
午後1時からのイベント内で



父である坂本九さんの代表曲「見上げてごらん夜の星を」をカバーし2003年にメジャーデビューした大島さん。「命の尊さ、かけがえのない日常の輝き」をテーマに歌を歌い続けています。また、父の遺した楽曲の継承者として、ラジオ・テレビなどのメディアでも活躍中。コンサートでは、ギタリストの笹子重治さんと共に、心に寄り添う歌声をお届けします。



大島花子さん